

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

(実施期間：令和2～令和7年度)

代表機関：山梨大学（総括責任者：島田 眞路）

共同実施機関：シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばく

取組の概要

これまでも各種協力関係を構築していた山梨大学、シミックホールディングス株式会社と株式会社はくばくが、「女性研究者育成」を連携の中心に置き直し、産学間の活発な人事交流による女性の能力を生かしたイノベティブな研究推進環境を創設し、地域人材の育成と産業活性化のモデル作りに挑戦する。本事業は、女性研究者比率が高い企業と、女性研究者比率の増加に悩む地方大学との組み合わせである。クロスアポイントメント制度による大学と企業内の積極的な女性研究者の人事交流、女性研究者を代表とする地域貢献型共同研究への研究支援、連携機関が共同で作る「アドバイザーグループ」による研究の確実なサポートによる地域貢献度の高い研究の推進と女性研究者の育成の推進が事業の骨子であるが、事業への大学院女子学生の積極的な参加を促すとともに、博士課程への女子学生進学を促す各種支援も用意することで、若手の女性研究者の育成も強化する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	a	s	a	s	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

代表機関は、既存の「女性限定クロスアポイントメント制度」を活用し2企業と連携することにより、山梨県内の女性研究者・技術者の人事交流を促進するとともに、女性研究リーダーによる地域貢献型共同研究を推進した。女性研究人材の育成と地域貢献を同時並行で精力的に進めており評価できる。地域貢献型共同研究には、女性研究者・技術者のみならず、大学院博士課程の女子学生も参画しており、女性研究者の次世代育成にも繋がっている。また、連携する3機関全てにおいて上位職、管理職への女性の登用が進み、副学長、社長、部長への就任、教授や准教授への昇任が行われたことは評価できる。代表機関は、工学系教員の女性限定公募等、自然科学系女性研究者の増加を図る取組を実施したが、効果は限定的であり課題が残る。今後は、実効性のより高いポジティブ・アクションの立案を期待する。

- ・ **目標達成度**：選定時コメントに対応し、女性研究者在職割合に係る目標を意欲的な数値に引き上げ、その達成へ向け取組を進めた。女性教授、女性助教の在職割合に係る目標を達成したことは評価できる。一方、女性准教授・講師、女性研究員の在職割合に係る目標は達成できておらず、今後の取組の工夫を期待する。
- ・ **取組**：代表機関が既存の「女性限定クロスアポイントメント制度」を活用し、共同実施機関である2企業はもとより県内機関の女性研究者・技術者の人事交流を促進したことは高く評価で

きる。また、3機関が連携し「地域貢献型共同研究支援制度」を創設し、女性研究リーダーによる地域貢献型共同研究を支援し、地域貢献を踏まえつつ山梨地域の女性研究者・技術者の育成を進めたことは高く評価できる。「Coの花フェローシップ」を構築し、大学院博士課程女子学生及び若手女性研究者を支援しており、女性研究者の次世代育成が期待できる。

- **取組の成果**：代表機関においてクロスアポイントメント教員（特任助教）として採用された、共同実施機関2企業に在職する専門的な知識とスキルを有する女性研究者・技術者3名が、地域貢献型共同研究の円滑な推進を担うとともに、論文発表や学会発表等の研究業績を挙げたことは評価できる。また、「Coの花フェローシップ」の支援を受けた女子学生が、代表機関で助教に採用されたことも次世代育成の成果として評価できる。
- **実施体制**：代表機関の学長のリーダーシップの下、3機関の連携を図る「Yamanashi Network for Diversity & Innovation」を創設し連携体制を強化したこと、また、第三者評価機関が取組の進展状況や成果を評価する体制を構築したことは高く評価できる。
- **今後の進め方**：補助期間終了後も代表機関を中心とした連携体制を維持し、一部規模を縮小する取組はあるもののこれまで実施した取組を自主経費により継続、発展させる計画であり評価できる。今後は、より実効性の高いポジティブ・アクションを立案し、自然科学系の中でも特に工学系及び農学系の女性研究者・技術者の増加、上位職への登用を図ることを期待する。